

JIU

The History of JIU

ヒストリー

城西国際大学の歩み

分冊読本 03

スポーツの国際交流始まる

キャンパスの「骨格」 出来上がる

城西国際大学入学式

JIU 城西国際大学

HP <http://www.jiu.ac.jp/>

発行：2020年4月

編集：学校法人城西大学 広報センター

発行者：城西国際大学 総務課

〒283-8555 千葉県東金市求名1番地
TEL：0475-55-8800

テーマごとの
歴史をたどる

歩み

JIU往來

運動部 後編

開学30年へ 地域に根ざした 総合大学として発展

「通史」「分野別」の2本立てで振り返る

学校法人城西大学は、水田三喜男先生による「学問による人間形成」を建学の精神に1965年に創立された。

三喜男先生は、現在の千葉県鴨川市で生まれ育った。戦後復興に全力を注ぎ、日本の飛躍的な経済成長の実現に努めた政治家だった。自由民主党政務調査会長として、義務教育費の国庫負担、私学助成等に尽力し、教育振興に情熱を傾けてきた。また、通産大臣、大蔵大臣などの経済閣僚を幾度もつとめ、財政・経済通として産業界に知己が多く、国際收支の悪化、経済不況や為替相場の変動など日本経済に難問が降りかかるたびに、冷静な水田先生の判断が頼りにされてきた。

その水田先生が掲げた「学問による人間形成」の精神を受け継ぎ、1992年に創設されたのが城西国際大学（JIU）である。2022年には開学30年を迎える。それに合わせ、地域に根ざした国際的な総合大学として発展を遂げている城西国際大学（JIU）の歩みを振り返りたい。

国際的な総合大学として発展を遂げている城西国際大学（JIU）の歩みを振り返りたい。

テーマ別「歩み」
今号は「運動部・後編」

30年を節目ごとに分けて紹介する「通史」に加え、テーマごとにその歩みと歴史をたどった「歩み——JIU往来」が前回号からスタートした。今号では「運動部……後編」を見ていく。（↓6～11頁）



増築中の第一食堂棟



第5回「JIUフェスティバル」

城西国際大学年表

平成8年（1996）3月～平成11年（1999）



- 5月31日 2002サッカーW杯 日韓共同開催が決定
- 7月19日 アトランタ五輪開幕

- 4月22日 ヘルー大使公邸人質事件勃発
- 6月28日 神戸児童殺傷事件容疑者逮捕
- 11月 北海道拓殖銀行が破綻、山一証券が自主廃業



父母後援会

- 2月7日 長野冬季五輪開幕
- 4月5日 明石海峡大橋開通
- 7月25日 和歌山毒物混入カレー事件発生
- 10月23日 日本長期信用銀行が破綻



総合体育文化センターも完成

- 1月1日 欧州統一通貨（ユーロ）誕生
- 9月21日 台湾中部大地震発生
- 同30日 東海村ウラン加工施設で臨界事故発生

キャンパスの「骨格」出来上がる

スポーツの国際交流が始まる——剣道部が台湾遠征



第5回「JIUフェスティバル」



「新時代」の雰囲気が学内包む

JR東金線求名駅近くの約6万6000平方メートル(2万坪)の土地を整備し、1992年(平成4年)4月に、城西国際大学は開学した。校舎3棟(A棟、B棟、C棟)と体育館、食堂、それに図書館も校舎に内設された。大学運営を支えた職員は約20人。大学バスのターミナルの横にあるA棟1階が事務所で、ここに学事課・学生課・総務課・入試課・経理課などが入った。

このほかA棟2階には情報センターがあり、ここで成績表や学生証など証明書類を一括して作成していた。あとは図書館に3~4人の職員、パート職がいただけだった。D棟、E棟の竣工に続き、95年4月、F棟、G1棟、G2棟建設・第一食堂増築工事が始まり、キャンパスの整備が進んだ。

「スポーツのJIU」へ 推薦入学もスタート

そして96年(平成8年)3月17日、第1期生学位授与式が体育館で行われた。初めての卒業式を迎え、経営情報学部・経営情報学科の208人、人文学部・国際文化学科の189人、2学部2学科の計397名の学生が初めて社会に、大学院へと巣立った。

第1期生を送り出して節目を迎えたJIU。父母後援会は千葉支部(94年10月)に続き、96年7月に東北支部が設立された。10月には、シャトルバスの東京便が運航開始になる。第5回の大学祭「JIUフェスティバル」のテーマである「JIU新時代」

2本目の「太い軸」整備へ

キャンパスの「骨格」も出来上がっていく。98年3月、総合体育文化センター(現在は「スポーツ文化センター」と改名)が完成。この場所で初めての卒業式が行われた。東金キャンパスの設計を担当した大田建築設計研究所の大田純穂所長によると、「求名門(JR求名駅)からピアノ池、橋を通る道。これが1本の大きな軸である」という。この軸に沿い各棟、体育館、食堂などが建設されてきた。

このあとは、現在の正門から「求名門軸」に交差するまでの間に並木道を作って本部棟などを並べる、もう1本の太い軸の整備が待っていた。

21世紀を控えた1998年から99年にかけて、2本目の太い軸に沿った本部棟・水田記念ホールなどの建設である。



総合体育文化センター



F棟、G1棟、G2棟の建設始まる

増築工事が進む第一食堂棟



父母後援会千葉支部



台湾遠征の結団式

求名門からの「軸」を示した完成イメージ模型より



運動部の歩み

後編



硬式野球部

開学年に創部
プロ野球選手も輩出



柔道部

創立者の想い受け継ぐ



サーフィン部

良質の波求めて全国から



観光学部
軟式野球部

創部10年
基本を大切に
方針で成果



引き継がれるエネルギー

国内屈指 強豪JU チームたち

プロへ、世界へ
広がる地平線

城西国際大学の東金キャンパスで第1期生入学式が
行われたのは1992年
4月15日。校舎3棟（A棟、
B棟、C棟）と体育館、食
堂、図書館——開学に必要
な最低限の施設・設備しか
なかった。

それでも入学した若い学
生は「野球がしたい」「サッ
カーがしたい」「思い切り
走りたい」……と集まり、
スポーツ同好会、運動部、
サークルが次々と生まれ
た。そのエネルギーはいま
も引き継がれ、全国大会
に出場する選手が顔を揃え
る。そしてプロの世界や実
業団に飛び込み、活躍する
卒業生も多く、「JUUS
ポーツの地平線」は広がっ
ている。

城西国際大学 軟式野球部



自主的なクラブ運営を伝統に



東金キャンパスを訪れ、交流会(トークショー)のあと在校生に囲まれて笑顔の宇佐見選手(中央)=2018年12月18日撮影

明治神宮野球大会では、準決勝に進んだ。これまで千葉県リーグでは、春と秋合わせ6回優勝している。この間、宇佐見真吾選手(日本ハム)らが巣立っている。

プロ野球選手も輩出

2007年に、佐藤清さんが監督となった。佐藤監督は、天理高校、早稲田大学、日本生命で活躍。2019年には、春の全日本大学野球選手権大会2度目の出場を実現させ、秋には、関東地区大学野球選手権大会で、初優勝Ⅱ写真Ⅱし、続く



硬式野球部 関東王者、そして神宮へ

城西国際大学が設立された1992年に創部。1期生は、18人で、国学院大学、千葉銀行で野球をやっていた職員の京相吉孝さんが指導者だった。開学したばかりで運動施設・設備が整っておらず、東金市営球場や県立成東高校のグラウンドを借りて練習していた。この年の秋に千葉県大学野球リーグの3部に入る。94年春に2部に、95年秋に1部に昇格する。リーグ参加から7季での1部昇格は、リーグでの最速記録である。97年には、米国遠征も行った。

その後は、2部降格、1部復帰を繰り返した。指導者も京相さんから高橋誠さん、そして、城西大学の硬式野球部の監督だった原田勝美さんが、就任した。

団体優勝重ねる 国内屈指の強豪校



日本選手権にも主力部員が出場している。

2020年の東京五輪の実施種目に決まり、一躍脚光を浴びているサーフィン。マリンスポーツの代表格だ。五輪会場も東金キャンパスに近い宮町だ。

ここで波に乗っている部員もいる。良質の波を求めて他の都道府県から一宮町に移住する選手が多い中、サーフィン部員は地の利を生かして汗を流している。「一宮は常にプロサーファーがいるので、吸収することが多い。刺激になっている」という部員たちは、日の出とともに海に入り、授業を受けた後の夕方から再び波に乗る。陸上トレーニングなども取り入れており、練習時間は一日4時間にも及ぶ。全国で約30大学がサーフィンに取り組み中、城西国際大は宮崎産大と並ぶ強豪校、と言われてきた。



国内屈指のサーフィン強豪校とい

えば城西国際大である。1994年に創部以来、全日本学生選手権秋季大会で30回近くも団体優勝を重ねている。全

柔道のJIU、として



開学の翌年に創部されたが、対外試合などで活躍するのは、2000年9月にJIUの職員となった秋山修一さんが指導してからだ。秋山さんは、創立者の水田三喜男先生の母校の安房高校の柔道部出身。高校卒業後は都内の大学に進み、選手として試合に出る傍ら学連の仕事も担当。

職員となった当時の部員は2名、

2001年に4名の部員を迎えて計6名でのスタートとなった。部員も増えた14年に男女チームが東京・日本武道館での全国大会(団体戦)に出場する。

毎年冬に東金キャンパスのスポーツ文化センターで



「水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」が開催される。本大会は創立者の水田三喜男先生が柔道にいらしたことにちなんで2001年にスタート。現在では全国の強豪校が集う「柔道のJIU」の大会として年末の風物詩となっている。



第30回全日本 大学選手権で優勝

城西国際大学 軟式野球部



城西国際大学軟式野球部（千葉東金キャンパス）は、創部が1994年。指導者に頼らず、学生が自主的にクラブ運営してきた。99年には東関東大会で優勝。2007年には、第30回全日本大学軟式野球選手権大会で優勝した。その後も同じリーグで観光学部軟式野球部と競い合い、好試合を展開してきた。昨年の東関東大学軟式野球連盟秋季リーグ戦では、準優勝し、観光学部軟式野球部とともに第40回東日本大学軟式野球選手権大会に出場した。11年ぶりの東日本大学軟式野球選手権大会出場である。



2019年春季2次リーグ初戦の日本経済学部戦（勝利）でホームプレートに立つ選手たち



2017年の秋季リーグで東リーグ一位通過を決めた国際武道大学戦（勝利）で



2019年春季2次リーグ・日大経済学部戦で

※写真は全て「城西国際大学 軟式野球部 Twitter」@jiubbより

御所蔵の写真をお貸しく下さい



創立30周年誌に向けて、昔のJIUの様子が撮影された皆さま御所蔵の写真をお貸しいただきませんか。運動部、文化部、海外連携、地域連携、父母後援会、セミナー！講演、大学院・研究など、これまでJIUが歩んできたさまざまな場面を、本誌「JIUヒストリー」でも掲載させていただきます。これは、というものがございましたら、ぜひ下記まで、一報お寄せください。お待ちしております！

窓口 城西国際大学 広報課 メール koho@jiu.ac.jp 電話 0475-55-7059

観光学部
軟式野球部

第40回東日本大学選手権で初優勝

千葉県鴨川市に城西国際大学の観光学部が設立されたのは、2006年。東金キャンパスで学生募集の担当をしていた河上國男さんが監督となり、2010年に観光学部軟式野球部が創部される。今年が創部10周年。

河上さんは、愛媛県出身で、根本陸夫さん（プロ野球・西武ライオンズの初代監督）との出会い、教えから「野球は基本を大切に、キャッチボールをしっかり、キャッチボールがすべて」を方針に指導した。最初は、選手わずか10人のスタート、うち9名が愛媛県出身だった。昨春秋、その苦勞が実った。第28回東関東大学軟式野球連盟秋季リーグ戦で優勝、3年連続4度目の優勝を果たした。この優勝で第40回東日本大学軟式野球選手権大会に出場し、こども快進撃を続けた。準決勝、決勝はいずれも延長戦となったが、それぞれ、日体大、白鷗大学を破り、初優勝を飾った。



第40回東日本大学軟式野球選手権の決勝戦、サヨナラ勝ちで優勝決定の瞬間

